





お佐

涼信稿

沖可月日口あはるまじき一即の冬移公端く寄居  
 の里老言きまじやしくとすあ一雙をみちるむねの  
 久しく凡物か好ま事止ま友に伊山あま魚園を原  
 きくく蕪門に抱ぬいまりくふりに偷暇く  
 沖可の風はよこらあれくははち其の針糸にうき  
 しくし附かりたぬらうくやんと多くも尺糸が尾に  
 ちるぬ今言ハ伊山のやあ一まゆ伊原の附き















寄ぬしとて

あつたしとていふをいふは

厚はく染くくく乃き

是はとらふ糸針もふれとら上りく寸の御  
ちりもやすたのむゆきとてさすく一巻乃  
けりもよけぬのは是にんは是にこれハいん  
と是の糸針もあつた糸針もあつた  
けりもよけぬのは是にんは是にこれハいん

よ柄とていふは今一らの備へてある針の  
定規とよぬは七各もハ併もいふ事あり  
ぬしとていふは買の金針とて

おぢてあまの佛れやま

びらに舟もよらふあつた糸針もあつた  
糸もよけぬのは是にんは是にこれハいん  
ちりもやすたのむゆきとてさすく一巻乃  
けりもよけぬのは是にんは是にこれハいん



そのおちろふとさうや

らやいしんとさやい舟乃ちあや

ついでにこれにそのまゝの年をいふ欠くし向に  
ほろやけやいしと一休ありやまにあらん  
ける身き二今の向くおとけくの寄おれん  
其位おちを付よと一返もたやとくとも  
とやけやいしとさやい舟乃ちあや  
くちやい

舟りしと壊と町ヨリかき

けりちさくのちと舟かきとさる人さのちか  
ちかきとちかきとちかきとちかきとちかき  
ちかきとちかきとちかきとちかきとちかき

敵の痛とさかむと

是れ梅路と名譽らうしと一舟園向御供と  
あ余席の御供あま集のけいといありと  
けいといありとけいといありとけいといあり



明眼の判者にあつた人のさうして席の習性の中  
ちんはあしり又同志のねにおろゆや判る  
詩一宗匠のねむさういさあ井の念をうへは一軸  
乃磨りあつた今一方の磨りくし中初ら  
あつたひらくねしきさうし席らひいさうし  
れいさおあつたさうし席らひいさうし  
平午のねはさうしさうしさうし席のねはさうし  
他のさうしさうし自己のねはさうしあはさうし

け石に口をむすむさうしあふあふ吐きさうし  
と其日初めさうし同内のけりさうし念れさうし  
り又他の判者あつた時さうしさうし果るさうし  
けりのけりさうし初めあはさうし自己の日  
ちいさうしのねはさうしさうしねいさうし  
初めさうしさうしさうしさうしさうし  
さうしさうしさうしさうしさうし  
さうしさうしさうしさうしさうし  
さうしさうしさうしさうしさうし



口和のおまといけりおなすこ是放逐の詞を  
留しれと御流し、頓ちよのこくかきおはし  
されぬちややくにあひみされつくとあり  
終日食りまおとすく眠れとまやに  
くあり、終日ありざる衣のこく  
御いさるけしに伊勢の令とあり  
百部は傳へありあゆにわはつとす  
の場にまをさる赤ね白は持ちや  
や

一ち白く及ぶあるハ又不可とあり  
法家の鳥けり書其祖文とよりおはよて  
巻末に名かたるある人序はふけし時  
今やいと他文のうはなとあり  
急く林目顧しほみおのり  
おるるく書其のうに  
いよかハつてはあはし  
とけしその巻しよあそと伊勢の人







月のうさぎのしずやけしき

まじりし月のしずやけしきのしずやけしき  
しずやけしきのしずやけしきのしずやけしき  
しずやけしきのしずやけしきのしずやけしき  
しずやけしきのしずやけしきのしずやけしき  
しずやけしきのしずやけしきのしずやけしき  
しずやけしきのしずやけしきのしずやけしき  
しずやけしきのしずやけしきのしずやけしき  
しずやけしきのしずやけしきのしずやけしき  
しずやけしきのしずやけしきのしずやけしき  
しずやけしきのしずやけしきのしずやけしき

風やこたけくさるるしずやけしき

涼塔

志くしのあしはるるしずやけしき

雙鳥

飛草に上たけしきしずやけしき

伊山

しずやけしきのしずやけしきのしずやけしき

唐園

ついでにすまのしずやけしきのしずやけしき

お

一軒のしずやけしきのしずやけしきのしずやけしき

墳

けしきのしずやけしきのしずやけしきのしずやけしき

園

しずやけしきのしずやけしきのしずやけしき

山



さのわさしあしくさの空うた  
りてみやけと仕立小坊子  
止園のわけくげ味もに嫁のそ  
まか係せり後たつり  
い糸山を乃あゝるいさやす  
か〜盗人と〜〜〜ぬ子お  
育〜に後家毒の力も癒〜ゆ  
書たれりすちのら公 系 局

皆 山 園 我 境 山 園

いさ〜く〜解の園もあし  
一字あはつ事女所〜知や  
帆けらに無さあ〜ん〜すや  
窓のあ〜音も道政を越  
探題公 柳とかゆの 柳乃と  
大ら乱よきふ人の自歩絆  
お好に木換もそろあ〜〜ま  
種も 之雨し甲 々れまあ〜る

山 花 紫 園 山 紫 園 山



遠のつに 影とおぼしき所と  
 はあーやうやく兵ハちん  
 ねほよおれきも何一のね  
 予座坊おろし 鐘は持る  
 波よりあつうやすくと 悟あり  
 仮り格うし 巾持くわく管  
 閑帳のあつ 明けられ 沖可力  
 糸うてあゝふりて 出せス  
 園 塔 山 塔 山 園

他病とつばひ 五も人のま  
 あにかすく 之味せんう 唱  
 いちてう 花石のまい 乃月  
 合款 一まにさく 眠る  
 鬼灯の 新理の 層一 産おし  
 乃乃とく ぬ上下 乃袖  
 息れおあつ 猫あつく  
 口信乃 ねと かけと ねく  
 園 塔 山 塔 山 園



咲けひるてめしとすむ不破の園  
 大報と答乃下り煙火  
 所て右諸節に碎くはアヤヤ  
 神の音中と有様乃致  
 沼頭の中々びくははるるま  
 浮葉如やうらめらるる有  
 けちハもて可いほし月けり  
 机のくにはるるあつたは  
 園 山 塔 塔 園 山 園

池と一輪んきくられもせに  
 竹葉の静れあはるる  
 おほろおを明ると通ぬの目と  
 くのぬぬぬの道心  
 即てやふぬ下るるつたえ  
 屏月の海々春けをひく  
 跡二つてうら田好裡にぬやう  
 那智のくふのぬ里こころ  
 園 山 塔 山 園 山 園



学向と欲のつく時ありしるい

蟬~~~~折った次の居眠

長刀れ才子ふ草履しらんて壺

たきれと所い草ハ多りぬ

幼童のこやいゝるの月

里のふれふ牛よやくそく

ちよ公ちおとらぬれぬきみん

すく仲人のけみ二ハかゆ

壺

園

山

壺

園

山

壺

白ふよの短けいゝ兼もゆふあけく

よいきつ~~~~あらしもゆき

新人は海心吹ちる壺のや

甲はつふやいぬけぬるら

あつけとけあふも~~~~帯

葉の返折もまのほしとく

牛地乃かんちとあ乃をさみき

着馬のぬびぬふはささん

壺

園

山

壺

園

山

壺



思ふにやあふふさげは草部  
下の白ほろ糸結くあま  
火の明を舟の用もさつさ  
かき捨ひ子とりやうすら  
秋冬のめくふ月もあま  
口の氷も解るや天ハ  
カサのまじり葉子並明く  
思ふに風とけれぬ甲子

山 岡 塔 山 塔 塔 山 塔 山

改言にぬれぬかたさく静く  
ふあうそ目ぬくあま  
侍う居る不肖く揃りひ  
正白くはあまのあま中  
あま越へてさうあま川を  
くすう箱やあま灯あ  
あまあま秋鼻あまのあま  
あまのあまあまあま下

山 塔 塔 山 塔 塔 山 塔 山



摺竹、隈逸うまくと葉うら

葉

何こしむり友ちうら男

鳥

和た師匠のすけ紙紙よけを

山

石漢かえはすけよのあ

鳥

官次を基礎紙年くもの毒

城

折紙の具はつけく何紙

園

信紙よ去りふ方あ、紙一

と

富士の着るくはあはる

城

山抄のすけ津あれうら紙うら

山

鴨とすき紙 踏人うかつ

皆

舟とまうら米口とやうら

園

室の夕紙 笑山やゆみこ

鳥

鳥加

望とまふとあに付やふはう月

始

山吹やけすをん 紙うら

鳥

けつるやうらははるん 物のを

川



定ん目のきりふあまのきり  
 葉ハ枝くまのりまのめ  
 葉目もほくちやの銀み  
 しくいよのかりに解あお言  
 煩あまよまのきりつけ  
 ちりやや女たちくたけす  
 ちる葉やあのをあまの  
 りのちや摘まのきりにつ  
 南条  
 秋年  
 和鳴  
 三楚  
 冠子  
 相京  
 淡河  
 祭奉

ありとよのりまのきり  
 葉もいよまのきり乃月  
 人きりあまのきり田螺  
 鱗のあまのきり白牡丹  
 ねあまのきりあまのきり  
 中まのきりあまのきり  
 人中あまのきりあまの  
 摘まよの葉のきりあま



ありくも梅乃 足らぬふりそのも  
 権師や岩に 牛さるし 清くあま  
 之よりにくく めてそや 梅乃と  
 ね波の 新ぶかくく やあのだ  
 松一ア 吹くそ 浪の ぬきま  
 ぬきに さかく 小まや 鈴の 夜  
 一ふれの一 けゆく 田く 柳  
 石上  
 可登  
 下路  
 戸園  
 伊山  
 雙丸  
 涼亭

叢桂堂藏版誦書目録

南北物語	前篇 上下	涼亭	うきやうり	浮葉著 夏巻
伊勢のはり	武山	雙丸	涼亭 巻の百種	涼亭
枯野問答	全	百梅	海乃きり	李趙
百題集	全	百梅	うりすこ	全
いぢあや島	東武	李趙	ほけく 柳拾遺	電洞
物話 餘負	續之足 猿	涼亭 連中		
支及林 社中	一 勺 立	東武 桐原		
秋 無	穂家のやうり	全 林水 菫里		

江都月夜橋通壹丁目 梅村宗五郎



